



日刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

93.1.14 No. 3723

1・1・1 動労千葉団結旗びらきに180名が結集!

93年動労千葉の真価問われる年

九三年動労千葉団結旗びらきは、一月一日、千葉県労働者福祉センターに組合員・家族をはじめ、われわれの運動を物心両面から支えてくれている全国の住民団体・労働組合の方々一八〇名の参集の下、今日の政治反動―PKO情勢粉砕、運転保安の危機に抗する踏切安全闘争を突破口に、九三年の闘いの勝利へ向けた決意を全体化するものとして大成功裡に終了した。

冒頭主催者を代表して、本部中野委員長が年頭の決意(要旨別掲)を述べたあと、来賓として、社会党を代表して大木正吾衆議院議員、県労連センター・広田事務局長、千葉県交運・岡野事務局長、三里塚芝山連合空港反対同盟・北原事務局長、部落解放同盟全国連合会・石川副分会長、北富士忍草母の会・天野さん、足立まち子成田市議、全金本山労働組合・中野販売部長、婦人民主クラブ全国協同会・西村代表、動労千葉弁護団・葉山弁護士、労組交流センター・山川全国運営委員、同・三角さん、結柴杉並区議会議員、動労水戸・石井副委員長の方々から、一部・二部を通じて、連帯と共闘のあいさつを受けた。

中野委員長・主催者代表あいさつ要旨
「九二年は戦後史を画する転換の年であった。PKO強行可決―カンボジア派兵、六・一三から戦後の歴史が変わり、住む世界が変わったのだ。九二年闘争の中で、反戦闘争を闘い抜ける労働運動の構築を目指し、自らの飛躍を勝ちとってきた。又、九二年は『分割・民営化』の破綻があらわになった年だった。『分・民』体制の打倒をさらに進めなければならぬ。九三年は動労千葉の闘いが、本物であったかが問われる年だ。安全の危機は、今深刻な事態にある。労働者の闘いの中から安全をとり戻すという、原点に立たなければならぬ。一月一四日から踏切安全闘争をその出発点としよう。動労千葉一〇年の闘いを総括し、新たな決意でその全成果をぶつけていく」



柴崎・小島支部長が決意表明

踏切安全闘争へ 日貨労解体!!

続いて、支部代表あいさつでは、旅客支部から木更津支部・小島支部長が登壇し、「無資格運転に代表されるように、JR当局は口では安全を言いながら、デタラメな施策を行っている。昨年の大踏切の事故とその後の経過は、明日は我が身のものとして受けとめざるをえない。その意味でも一四日から踏切安全闘争を一糸乱れず闘う。強制配転者の現職復帰へ向け闘いを強化しよう」と訴え、貨物支部を代表した新小岩支部・柴崎支部長は、「『分割・民営化』の矛盾は、貨物会社に集中している。昨年の年末手当を見るまで

闘いの先頭へ起つ!

勝浦支部 佐藤新支部長



動労千葉九三年旗びらきメッセ―ジ

- 参議院議員・赤桐 操
- 全労済千葉県本部・坂口理事長
- 動労高崎連帯労働組合
- 動労西日本北陸支部
- 部落解放同盟全国連古支部
- 全国連長野東連準備会
- 東京労組交流センター
- 千葉労働組合交流センター
- 衆議院議員・新村 勝男
- 全国一役長崎連帯支部
- 国鉄西日本動力車労働組合
- 部落解放同盟全国連合会
- 中央執行委員長・瀬川博
- 全関西実行委員会
- 代表世話人・永井満

紙面を借りまして感謝申し上げます。

全国鉄労働者は 鉄輪旗の下に結集しよう!



もなく貨物への格差拡大は絶対許せない! 『三月ダイ改』では、『時短』と動乗改悪という攻撃がかかってきている。日貨労解体へ向け、貨物の総力をあげて闘おう! という力強い決意を受けた。
九三年動労千葉団結旗びらきは、その後のカラオケ大会・抽選会を含め、終始親睦を温めるうちにもピーンと張りつめた全組合員の、新たな闘いへの決意がにじみでる闘争宣言の場となった。
われわれ動労千葉が、営々と築き上げてきた反合・運転保安確立の闘い、その真価がいよいよ発揮される時が来た!
全国鉄労働者は鉄輪旗の下に結集せよ!